

爛然 らんぜん
へきち
碧池 へきち
堀 ち

(参考)

第二十分代

清秋

(帯の清秋(見))

作・書

庭・石を敷き詰めた庭

りの木

の緑の葉が池に写

池が緑色

鮮やかなこと

コヒト遠慮

に満つるを知んと欲す

至る前堀

爛然碧池に映ず

秋景を看る

庭をい

ていぜんかえで